



女体嗅銃射爆録

DOJIN  
R18  
成人向け  
18歳未満の  
購入・閲覧禁止



「あ……あの……指揮官……」

「今日も演習後のエンタープライズを密かに呼び出し、健康チェックという名目で身体を眺める。」

「今日もその……するの……か……?」

「もちろん。大事なことからだからな」

「や……やっぱりその……先にお風呂を……」

「いやいや、今の状態が一番いいんだよ」

「ハードな演習をこなし程よく熱をもった身体を観察する。エンタープライズの肢体……特に腋まわりは非常に芳しい匂いを発していた。」

「はい……」

「かも……」

「はい……」

「すんっ……今日もスケベな臭いだなあ……」

「鼻を近づけ、思う存分その香りを堪能する。」

「……あんまり……嗅がないでくれ……」

「……こんなエッチなフェロモンを出しておいてか?」

「……うう……」

むゆな……♡

「んっ……それじゃあ今日の調子を……」

「ひゃっ……!」

「両腕をあげさせたまま、うなじや首、腋まわりを念入りに舌でねぶっていく。」

「今日も健康だな」

「汗とフェロモンが混じり合った脳髓に響く匂いを堪能され、エンタープライズに羞恥を味わわせる。」

「んっ……くう……」

「息と声押し殺し、指揮官の『健康診断』に耐えるエンタープライズ。『最近、腋を舐められて感じやすくなっているか?』」

「そ……そんなことある訳が……」

「そうか……それにしてもは」

「俺がこうして舌を這わせるだけで身体を震わせる頻度があがっているようだが」

「……そんな……はあ……そんなこと……」

「やはりエンタープライズ本人は気づいていないが、腋が性感帯として着々と開発されているようだ。普段から存分に露出しておいて、無自覚な淫乱女だ。」

ぶる……

ゆるま……♡

ぴちゅ……

「あつ……あつ……はあつ……」  
『うっ……いいぞっ……そのまま締め付けろ……』

エンタープライズの腋を性器に見立て、  
男性器を抽送し快楽を得ていく。

あくまでこれも体温チエックもろもろの役割である。  
「はっ……指揮官っの……」  
「はっ……指……指……指……」

『おおっ……感度良好だなっ……健康な証だっ……』

彼女自身の汗と念入りに付着した唾液により

エンタープライズの腋マンコは実際の女性器に負けない  
最高のオナホールとなっていた。

ぶっぶっ♡

「ッ！射精すぞッ！」

「んっ！ああああっ！♡」

ビュブツ！ポビュルツ！

「くっ……ひっ……あああああっ♡あっ♡」

エンタープライズの嬌声とともに精子を吐き捨てる。

射精の度にあがる声明らかに色気を伴っていることに  
エンタープライズ本人は気づいていない。

ぽんっ……!!

ぷびゅっ!!

ぶびゅっ!!

ぶびゅっ!!

ゴッ!

『また射精すぞッ！抑えろっ……!』  
エンタープライズの胸部中央、深い部分に  
乳内射精をかましていく。

「んっ……あつ……はあつ……はあつ……熱い……」

たわわに実った立派な胸に挿入し、  
オナホールとして扱っていく。

自らの身体がいかに男を悦ばせる逸材であるかを  
刻み込まれていくエンタープライズ。

『ふう……このまま抜かずに  
もう一回やるぞ』

「あつ……ああ……」

ぬちゅ……びじゅ……と不快な音をたて、  
乳マンコを再度犯していく。

ローション・唾液・汗による粘度で  
すぐさま射精の高揚感がせりあがってきた。

「胸も調子がつ……いいようだなっ……!」

「うあつ……指揮官っ……そんなに激しくっ……」

「射精するのだなっ……またあの熱い……モノをっ……♡」  
全身性器となりつつあるエンタープライズの瞳には  
確かな調教の成果が浮かびつつあった。

あゝ♡

は……

は……♡

ぶびゅっ!!

びゅっ!!

びゅっ!!

びゅっ!!

「ちよ……ちよつと指揮官……そんなに嗅がないでよ……」  
『いやいや、めちやくちやいい匂いだし……』

私は今日も指揮官の部屋に來ている。  
新米の私には最近知らされたことだけど、  
どうやらここに配属となつた子たちはこうやって  
交代で指揮官の性欲を処理していく決まりがあるらしくて……  
「指揮官ってさ……その……においフェチってやつ？」  
「うん」

「うう……そんなノータイムで……」  
さつきからずうつと私の身体を嗅ぎ続ける指揮官。  
日課の訓練が終わつてからお風呂に入らずに來いって言われたけど  
まさかこういうことになるなんて……



「もっ……もう……本当に恥ずかしいんだから……」  
『そんなことないって……ああ……瑞鶴の身体は柔らかいなあ……』  
「ちよつ……腰、擦り付けないで……」  
お尻のあたりに指揮官の……熱いアレがぐりぐり……  
ていうかこういうこと、お姉ちゃんもされてるのかな……  
……お姉ちゃんはどうなのかって聞くのは  
恥ずかしいからいっか……

『おおっ！一回目！』  
ピュッ……びゅゅつ……

「ええっ……？また腋に射精すの……？」  
私の腋で見抜き……？っていうのをやって  
一人でずつとしごいてると思つてたら……  
腋にぶっかけたいだなんて……

「ね……ねえ指揮官……こういうのって普通なの？」  
『おお……もちろんもちろん』  
「そ……そう……」  
ホントかなあ………なんかすつごく  
へんタイなことしてる気が……



まあ……指揮官が私の身体で興奮して  
うまく処理できているなら……びゅ  
悪い気はしないんだけど。  
うう……でもぐちよぐちよにされるのは  
慣れないわね……  
指揮官の……その……ニオイがすごい……

「んむっ……ちゅっ……こう……？」

指揮官のお尻の穴を舐めながら、指揮官のモノを胸で挟み扱き続ける。

うめき声とともにお尻をぶるぶると震わせていて、直接の返事がなくても気持ちいいのが伝わってくる。

先走りて出来た汁と汗でぐちよぐちよになった私の胸を、指揮官の……肉棒がかき分けていく……

「んっ……むっ……ちゅっ……ひきかん……」

そんな動かれたら舐めにくい……さつきから小刻みな腰の動きが激しくなってきた……

「ちゅっ……ずじゅっ……うんっ……もう射精そうなの……？」

んっ  
ちゅっ  
ずじゅっ

むいゅっ

ぱちゅっ♡ ぱちゅっ♡

パンっ♡ パンっ♡ パンっ♡ パンっ♡

へこへこ腰を振りながら合図を送ってくる指揮官。ああ……また射精されちゃう。私の胸に直接……乳内射精っていうんだっけ。あっ……指揮官の……びくびくって……くるっ……熱い精液きちゃう……私の胸……汚されちゃう……

ビュルっ！びゅぶっ！どぶっ！びゅぶるるるるっ……！

「んっ……うっ……ちゅっ……ぶちゅっ……んくっ……」

射精の音を聞きながら、お尻の穴を舐め続ける。私が舌をかき入れる度に、大きくびくんっ跳ねて射精の量が増えるような感じがした。

私の胸の中で大きく暴れるような動きから、少しずつ大人しくなっていくのを肌で覚える。

「んっ……ふはっ……気持ちよかったり……小さな震えとともにびゅるっ……びゅぶっ……とまるで代わりの返事と言わんばかりに射精で反応する指揮官。

「全部出して……んっ……ちゅっ……最後の最後まで射精してもらうためにぐうと胸と抑え、強めに舐めてあげる。」

んっ  
ちゅっ

ぐちゅっ

ズビビッ

ビクっ♡ ビクっ♡

ぐちゅっ……！ぬちゅりっぶちゅっ……部屋中に卑猥な水音が響き渡り、卑猥な高揚感もたらされる。射精の瞬間なんだか指揮官から小さな声で好きって聞こえた気がするんだけれど……私の胸とか、こういうプレイが好きってことなのかな……いろんな子が交代で処理してるって言うことは、あのグレイゴーストもこういうことを……私の方が気持ちいいって言うてもらえるようにこれから頑張らなくちゃ……！



「どうだ指揮官?この角度でいいか?」  
「あつ……はいっ……最高です……!」  
「はいずり?と聞いたときは要領を得なかつたが紅葉合わせのことだったのだな。此れなら知つてゐる。実際にやったことはないが、他にも四十八手等は知識として抑えてはいる。指揮官の性欲処理に役立てられるのであれば、存分にふるわせてもらおう。」

「にしても……我はこのまま何もしなくてもいいの?」  
「はっはい……俺に任せてもらえれば……」  
「三笠さんの胸、お借りさせていただきます……!」  
「そうか……文字通り、胸を借りるといふ表現だな!」  
「我にできることがあるならばなんでも言うといい。指揮官の性欲を処理するのもこちらの仕事である以上、他の子にも負けない働きをしてみせようじゃあないか。」

ぱん ぱちゅ



「うつく……三笠さんっ!そろそろ射精しますっ!」  
「そうか。見届けてやるから、存分に放つといいぞ」  
「うっ……ああっ!」  
「ビュッ!ビュッ!びゅー!」  
「ふふ……私の胸の中で弾けているぞ……」  
「うっ……うっ……三笠さんっ……三笠さんっ……?」  
「遠慮するな……全て射精しきるまで、抑えていてやる」

「……これで全部か?」  
「はあつ……はあ……はい……すみません……」  
「ちよつと胸……強く握っちゃつて……」  
「構わないさ。指揮官の普段見れない表情も堪能できたからな」  
「うっ……」  
「こういつた休息も大事なことだ。普段指揮官は、頑張っているからな。褒美のようなものと思えばいい。射精したくなつた時は、いつでも我に頼っていいからな。ふふっ……」

どぼん びゅ

「ふふ……ご主人様、いかがでしょう？  
私の胸……おっぱいは？  
……返事を聞くまでもありませんね。」

「私の腕と胸としばりあげたと思ったら、  
縦パイズリによるお仕置きとかなんとか……  
ベルファストは何か粗相をした覚えはありませんが……  
こんな胸をしているのが悪い、というのでありまして  
甘んじて罰をお受け致しますよう。」

「ご主人様の熱いモノがベルファストの胸を犯しておりますね。  
往復するたびにぐちゅっ……ぐちゅっ……  
卑猥な音を立てております。摩擦も大きいですね。」

「いつでも射精して構いませんよ？  
ご主人様の性欲処理もメイドの努めです。  
ご要望がありましたらいつでも応じさせていただきますので。」

「さあご主人様、立派なお射精をお見せください。  
お望みでしたら、カウントダウンなどいたしましょうか？  
ふふっ……」

ふにゅっ  
むにゅっ

ぽんっ ぽんっ はちゅっ ぶちゅっ

「はい……射精ですね。どうぞ、ご存分に。」  
「びゅーっ……びゅっ……びゅっ……  
ふふふ……すごい勢い……  
全て射精しきるまで、何度でも腰を打ち付けてください。」  
「ベルファストが、すべて受け止めてさしあげます。」

「本日は趣向を凝らしたプレイなだけに  
いつもより精液の量が多いようですね。」

びゅるる  
びゅるる

「ご主人様が望まれるのであれば  
今日のようなユトも臨ませていただきますので、  
いつでもお声掛けくださいませ。」

ぽんっ ぽんっ



「うっ……くっ……あっ……」  
「ウイチタさん？調子はどうですか？」  
「くっ……馬鹿者……っ！」

まゆあ

パン！パン！  
パン！パン！

「知ってるんですよ……そんなカオしてるけど  
気持ちいいんですよ……」  
「あ……はあ……そんな訳……」  
「腕は縛ってあるけどそれだけなので  
逃げようと思えば逃げられるんですけど……  
でもそれをしないのはウイチタさん自ら  
気持ちよくなってるからでしょ……」  
「うっ……うるさい……これはなっ  
貴様に盛られた薬の……せいでっ……」  
「身動きがとれないって言いたいんですか？  
自分でも腰を動かしているように感じるんですけど」  
「黙れ……！黙れ……！あ……」

「そうそう……さつきウイチタさんに飲ませた  
薬ですけど……あれ、本当は  
媚薬でもなんでもないんです」  
「っ!?何をッ……!?!」

ボビュ!

おまーん

「ただのビタミン剤ですよっ!だから今  
ウイチタさんが感じているのは完全に  
ウイチタさんのせいっ!」  
「あ……そんな……嘘を……ッ」

「うっ……!射精るッ!」

「ビュブッ!びゅぐりゅりゅりゅうッ!

「あ……待ってそんな今っ今射精されら  
射精されたら……おっ♡おほっ♡

「ほおおあああああ……♡♡♡」

「ふう……最高の名器でしたよウイチタさん……!

「そろそろ自覚したらどうですか?腋も胸も

犯されている時のウイチタさん、本当に

気持ちよさそうでしたよ?

「エッチが大好きな重巡洋艦ですってじぶんで  
言ってみてくださいよ」

「そんな……おっ……♡……♡……」

ブルブル!!



「すう……すう……」  
「効いてるよな……睡眠薬……」  
「はあ……近くで見るとやっぱりめちゃうくちゃ美人だ……」  
「加賀さん……寝込みを襲うような真似してごめん……でもっ……」

「はあ……はあ……ごめん……」  
「どうしても我慢できなくて……」  
「普通にお願いしてもよかったんだけど、寝てる時も趣があるというか……」  
「こんな言い訳聞こえるわけないか……」  
「すう……ふう……はあ……加賀さんのうなじ……」  
「首元……全部いいにおいする……やばい……」  
「めちゃうくちゃムラムラする……」  
「寝てる加賀さんのおいをオカズにオナニーするなんて……すげえ贅沢……」  
「あぁ……加賀さあん……すう……ふう……」

「肌は白いし髪はサラサラだし近くで見るとやっぱりすごい加賀さん……」  
「うっわ……おっぱいでっか……」  
「この腋のラインもすごく綺麗で……」  
「すう……いい匂いすぎる……」  
「ほんのり汗が混じって、しっとりした肌ざわりになっててやばい……もう射精しそう……」

「あっ……加賀さん……射精る……」  
「やばい……この腋とおっぱいにぶっかけ……」  
「起きちゃうかな……いやでも……」  
「もうやばっ起きたら謝るごめん加賀さん……」  
「ピュプツ！ピュツ！ピュルル！」  
「あ……はあ……すう……ふう……」  
「うう……加賀さんの体臭に包まれながらの射精……最高……」

シッ  
シッ  
シッ  
シッ







「うーん今日はどうしようかな」  
 「はあっ……はっ……ロングアイランドっ……!」  
 「おーそういえばこのイベント明日までだったか  
 周回しなきゃ」  
 「ううっ……気持ちいいっ……ロングアイランドのまんこっ……」

「指揮官、気持ちいいっ」  
 「おうっ……最高っ……最高だぞ……!」  
 「そっかーえへへよかった。いつでも射精していいからね」

「ううっ……ありがたいんだけど……  
 ロングアイランドはいいのか……?」  
 「え?うーんロングアイランドもいい感じだよ」

ぽんっ♡ぽんっ♡

「指揮官のちんちん、小さすぎて  
 挿入ってきた時に気づかなかったぐらいなんだけど  
 ショック受けそうだから言わないでおこ……」

「いいっ……ううっ……すきすき  
 ロングアイランドっ……ロングアイランド……!」

ぽちゅっ♡ ぽんっ♡



「ふうーっ……ふうーっ……すう……  
 ロングアイランドの髪い……いい匂いっ……」  
 「そーおーありがと」

「ふっふっ……ふうっ……ふっ  
 ロングアイランドっ……そろそろっ射精るっ」  
 「おーいいよー今日ははやいね」  
 「んんぐっロングアイランド!おっばい触っていいっ?」  
 「お好きにどうぞ。おっ動画更新されてる」

「はあっ……はあーっ……ロングアイランドお……  
 好きだあ……好きっ……おっばい柔らかいぞ……」

「んーありがと」  
 ロングアイランドも指揮官すきだよ」

「まっマジ?ほんとに?もっと言っで?」  
 「すきすき最高」  
 「ううっ……ロングアイランドお……」

ふっ  
 す

ぽちゅっ♡

ぽちゅっ♡ ぽちゅっ♡

『射精るっ！射精るッ！  
ロングアイランドッ！  
好きっ！』

ビュルッ!!

「ん〜。」

「うわ〜またレアかあ〜……」

びゅっ…

びゅらっ…♡

びゅっ…♡

グビュルルルッ!!!

『ふう……ふう……射精たあ……』

『ありがとう……』

『ん、お疲れさま〜』

『ロングアイランドはどうだった？』

『ん〜ロングアイランドも気持ちよかったよ〜』

どろまっ…

『また射精したくなったらいつでも  
使っていいからね〜』

びゅらっ…♡



# 女林囃銃射煉鍊







フェチ視点

ダッ

ダッ

ラン

ダッ

グ

レ

ー

先

ダッ

ダッ

ダッ

生

ダッ

ダッ

!!

ダッ

ミガッ

子供体型なのに  
オトナの香水の  
匂いするのすき!

ちよっ  
こすっ!

ムワッ

はあゝゝ  
オトナフェロモン  
の臭い

ハアス

スウ

ガッ

あゝゝ  
ラングレー先生の  
臭いでイク!!

ミガッ

わる  
わる

るるる

るるる

フツツの  
射撃のゝゝ!!

ちんちんの臭いを  
嗅がれている方が  
仕事が捗る？

バカなんですか  
指揮官

いえ馬鹿に  
してるんですか？

こんなひどい臭い  
人に嗅がせて！

モロ

モロ

一時間後

ちよっちよっと  
指揮官

ほっほ

じょ冗談  
ですよね？

はあ…すう…

こんな…ツ  
一日中なんてっ

ムハハ

四時間後

ゆるっ

ゆるひて  
ひきかんツ!!

あたま…  
へんに…ツ


ムハハ

ムハハ..



日本上陸性的概念美少女艦隊激戰歷史筐体激的爆誕射爆襲來  
性癖性的正中線六段突全開美少女整列並列射精列爆發的興味  
至健康理由行動開始即射爆了經綾波選択射精精製生成精子感  
初建造完了入力企業來訪瞬間射爆桃源鄉的性的腋大腿景色压  
感压卷召使女性侍女鈴速女史中之人好好声優堀江由衣女史大  
好昔々悠久好精子放出每日送信電子海性的春画性的画像模索  
日夕探求探索春画然性的春画全然無全然見無泣泣顔面強打中  
自作春画代行絵描絵卷収録当同人誌発行理由至理由爆誕理由  
自作春画同人誌觸発他指揮官達啓発觸発自作春画描画希望刷  
描希望入力企業恋愛性的優世界的同人誌超癒性的射爆了絵本  
描希望侍女鈴速女史恋愛性的御主人様性欲処理侍女的努絵本  
描希望横乳黒子冷静女横乳胸部性的使用逆寝込指揮官肉絵卷  
春画提供希望瑞鶴胸部睡眠姦翔鶴併内緒性欲処理玩具状态本  
同人誌希望永邪楠様脚舐腋舐舐御奉仕子豚気分堪能受身絵卷  
恒久的平和希望当同人誌国交親交友好本希望架橋性的射爆絵  
精子精液金玉汁希望当絵卷春画同人誌国交平和交流絵卷数々  
当概念超絶高級精子発射絵卷全世界使用橋発展希望謝謝茄子

嗅  
舐  
好



◆今回、選抜に悩んだけど今回お蔵入りとなった  
二枚を無理やりねじこみました。  
こちら三枚は後ほどファンティアや  
どこかで清書できればな…と思います。

■立ち絵の時点で性器モロ見せで  
エッチな誘惑してくる日向すき

■エイジャックス様。改は我が艦隊のエースでございます。  
こう…ローブみたいな取っ払ったら下はノースリーブみたいな  
めっちゃくちゃ好きなんです。加えてこういう手袋みたいなしてたら  
完璧です。長手袋だったらもっと完璧。黒なら最高。白でも大歓迎です。  
手袋はニーソックスにならぶエッチパーツだと思ってます。



■エイジャックス様、パッと見た感じテンプレドSお嬢様キャラかなと思いきや  
意外と可愛らしい女の子の一面があって普通に指揮官好きなのがわかってかわいいなと。  
イタズラとかに付き合っただけでこっちが身体痛めたらわりと素で心配してくれそうな感じ。  
アズレンの子は基本最初から指揮官のことうっすら好きって子たちが多くて嬉しいです。



# 女体嗅舐射爆録

アホくさロゴデザイン：ゆっこ(@yukko84)

## おくづけ 女体嗅舐射爆録

発行日 2017/12/31  
発行者 有都あらゆる  
印刷所 マツモトコミックサービス様  
連絡先 husumasuma@outlook.jp  
Twitter @arito\_arayuru  
サイト blog.livedoor.jp/arito\_arayuru/

■この本の転売・複製・違法アップロード等をご遠慮ください。

I wholly prohibit the following acts concerning this book:

- Uploading on website or any other social media.
- Putting up for auction (such as Yahoo! auction, eBay).
- Resale

Thank you for your cooperation.

An illustration of a person's right arm and hand, rendered in a soft, painterly style. The skin is a warm, light orange-brown color, and the hand is positioned as if holding something, though the object is not visible. The arm is bent at the elbow, and the hand is near the center of the page. The background is plain white.

まよいえスタ-ズ